

千葉

CHIBA

chiba@mainichi.co.jp

混迷の中東情勢解説

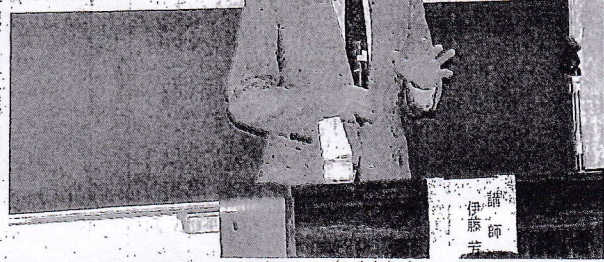
鎌ヶ谷で本社元主筆

鎌ヶ谷市国際交流協会主催の「中東情勢を明さん(74)が、混迷深理解する講演会」が8日、同市生涯学習推進センターで開かれた。毎日新聞元主筆で、カイロ特派員として1980年代の中東取材経験がある伊藤芳明さん(74)が、混迷深理解する講演会「中東情勢を明さん」が、混迷深理解する講演会」が8日、同市生涯学習推進センターで開かれた。

伊藤さんは講演冒頭、トランプ大統領の「ガザを米国が引き取る」発言を取り上げ、「ガザをリソト地にするというのは不動産王らしい発想。しかし、ガザのがれきは東日本大震災の倍近くで、政権の4年間で片付く量ではない。無責任ではないか」と批判した。

また、80年代当時のハマスはイスラム教義に基づく福祉団体だったと語り、

谷市国際交流協会(KIFA)主催
1年度 世界を知る会
 基礎から学ぼう～
 伊藤芳明氏(ジャーナリスト) 司会委員



鎌ヶ谷市で
 パレスチナ問題を解説する伊藤芳明さん

たとし、「壊滅させられても復活するだろうと感じた」と回顧。イスラエル建国に伴い48年に土地を追われたパレスチナ人に対し、ユダヤ人は紀元73年のマサダの戦い以来2000年間にわたり国家建設が悲願だったと述べ、「二つの全く異なる時間軸に、宗教も絡んで難しくしている」と語った。

さらに、パレスチナ側の代表がおらず、イスラエルとパレスチナの両者を納得させる仲介者がいないことが課題だとし、「(トランプ発言は)イスラエル寄りだと宣言したと同じで、決定的な誤り」と指摘した。

【栗田智弘】